

# 子連れで働くことを選択した母親の ワーク・ライフ・インテグレーション

藤木久美子<sup>1)</sup> 佐藤 香代<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup> 福岡大学医学部看護学科

<sup>2)</sup> 福岡県助産師会

要旨：本研究の目的は、子連れで働くことを選択した母親の思いや働くことの実態を母親の視点から KJ 法で分析し、「子連れで働く」ことの様相と課題を明らかにすることである。

母親たちは、子連れで働き始めた動機として、育児に専念する生活の中で感じた孤独感やストレス、ママ友との関係性に苦しみ、社会の中で子連れで働くことを選択していた。子連れで働き始めた母親は、一緒に働く仲間（母親たち）の存在により、孤独感を解消し、安心感を得ていた。働きながら子どもの成長を見守ることができる環境に喜びを感じ、育児と仕事の両方があることでどちらも上手くいく感覚を得ており、さらに子どもへ真っ直ぐに向き合い子どもの思いを尊重することができるようになっていた。そのような環境において、コミュニティの中で育てられている子どもの成長や、夫・職場の男性の変化も感じ、「子連れで働く」という働き方、選択肢を増やしていきたいと述べた。これらの変化は、仕事と育児を統合したワーク・ライフ・インテグレーションとしての効果である。

キーワード：母親，子連れ，育児，仕事，ワーク・ライフ・インテグレーション